

大野市脱炭素ビジョン（案）に係るパブリックコメントの結果について

1 パブリックコメントの実施状況

- (1) 案件名 大野市脱炭素ビジョン（案）について
 (2) 募集期間 令和5年2月24日（金）から3月24日（金）までの29日間
 (3) 意見提出状況 提出意見：10件、提出者：5人、提出方法：書面8件・電子メール2件

2 意見の概要とその意見に対する市の考え方

No	意見の概要	回答（市の考え方）	修正箇所
1	<p>大野市は、2050年までに市内の二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現に挑戦することを宣言している。</p> <p>除雪業務においても、二酸化炭素の排出抑制に取り組む必要がある。</p>	<p>本ビジョン案では、二酸化炭素（CO₂）を減らすための基本方針の一つに「各部門で、最大限の省エネ対策を進める」としています。また、本市は、産業（工場や建設業など）、民生（会社や家庭、行政）、運輸（自家用車など）の3部門CO₂排出量がほぼ同じ割合であることが特徴の一つです。そのため、特定の部門だけでなくそれぞれの部門において脱炭素化に向けた取り組みを進める必要があります。</p> <p>ご意見の除雪業務を含めた市業務では、市民や事業者の模範となるよう率先して省エネに取り組むとともに、産業・民生・運輸それぞれの部門において、市民や事業者と協力して省エネ対策を進めていきます。</p>	なし

2	<p>総じて、バイオマス発電燃料の安定的供給を図りつつ森林経営計画面積の減少に歯止めをかけることが焦点になっている。大野市に恵みをもたらす森林全体についての言及も欲しいところ。</p> <p>大野市森林整備計画変更計画書が令和4年3月に発表されてるが、今回の脱炭素ビジョンとの関連ではどう整理できるのか。国際ルールを枠を超えて大野市ならではの森林ビジョンを加えてもいいのではないか。</p>	<p>ご指摘のとおり、本ビジョン案では、本市が有する広大な森林を生かした森林吸収量を維持することで、2050年までにカーボンニュートラルの達成を目指すこととしています。この目標を達成するためには、森林施業の担い手不足や所有者の森林離れなど本市の林業が抱える課題を解決していく必要があります。</p> <p>そこで、令和5年度において、本市の森林整備や森づくりの方向性を示す「おおの森づくりプラン」を策定します。策定後は、本プランに基づき、脱炭素に向けた森づくりの振興策や人材育成、木材利用の推進などに取り組んでいきます。</p> <p>なお、大野市森林整備計画は、森林法第10条の5に基づき、国及び県の森林計画に即し、本市の森林施業全般の指針などを示した法定計画で、本年3月末にも変更を予定しています。本計画に示す森林施業方法に則り、本ビジョン案に示す「伐って、使って、植える」という木材の循環利用に向けた森林施業を促進していきます。</p>	なし
3	<p>自動車依存度が高い大野市にあって、利便性の高いライドシェアの導入は大いに期待したい。今回、大野市版「Uber（ウーバー）」の導入（一</p>	<p>人口減少の進行や運転免許保有者の増加などの影響により公共交通の利用者は減少するとともに、交通事業者においても担い手の確保が課題</p>	なし

	<p>般のドライバーが運転手として働くシステム)を 目指すと理解していいか。市民共助で結ばれた公 共交通システムが実現するならば、結の故郷越前 おおのらしい取り組みだと思う。A Iを活用した デマンド交通の充実は、観光客にも喜ばれます。 越美北線の時刻に合わせた利用なども考えやす い。大野の魅力を最大限引き出すことにも繋がる と思う。ぜひ実現してほしい。</p>	<p>となっています。そのような中、高齢化に伴い運 転免許自主返納者は増加傾向にあり、地域におけ る移動手段の確保が求められています。</p> <p>そのため、本年、既存の公共交通を補完する取 り組みとして、柿ヶ嶋区において地域住民が運転 を担う助け合いによる移動支援を試験的に実施 しました。</p> <p>自動車依存度・自家用車保有率の高い本市にお いては、ライドシェアやA Iによる配車システム の導入、又は、自動運転システムの搭載などが将 来的に期待されます。引き続き、技術の進展と法 規制の動向を注視するとともに、ニーズや利用実 態に合わせて既存の交通サービスの改善を図り ながら、本市にふさわしい共創による地域交通の 実現を目指していきます。</p>	
4	<p>ホームセンターで売っている薪は高くてなか なか手が出ない。薪ストーブ用の薪として、木の 切れ端や間伐材などを再利用する循環を作って ほしい。</p>	<p>本ビジョン案では、冬期間の熱利用を石油燃料 から再エネに転換するため、間伐材や建築残材の ほか、もみ殻などを燃料化し、それらを使ったボ イラーやストーブの普及を促進することとして います。今後、林業や農業など市内関係者と連携 して取り組みを検討していきます。</p>	なし
5	<p>オーガニックとは、直訳すると「有機」であり</p>	<p>本ビジョン案では、①本市の特徴を生かした</p>	なし

	<p>有機食品を示す言葉と思われがちだが、それはオーガニックの一片に過ぎない。オーガニックとは「人にも、土壌にも、植物にも、動物にも、そして地球環境にも優しい循環の仕組み」のこと。未来の子どもたちに、地球に、どう循環していくかが大事だと考える。</p>	<p>「結の心」による協働のまちづくり、②豊富な自然や地域資源を活用したまちづくり、そして、③脱炭素の取り組みを源泉とした、経済とエネルギーの域内循環によるまちづくりを進めていくことを基本戦略に掲げています。</p> <p>この戦略に基づき、再エネを地域で作って地域で消費する「再エネの地産地消」、森林吸収源対策の一環として「伐って、使って、植える」という循環利用、未利用資源であるもみ殻などを燃料利用する農業用ハウスを活用した「通年型農業の構築」といった地域内の資源を循環活用する取り組みを進めていくこととしています。</p> <p>これらの取り組みを通じ、「脱炭素社会」と「人、モノ、カネが地域で循環する地域循環型社会」の同時実現を目指します。</p>	
6	<p>各部門（産業・業務・家庭・運輸など）が二酸化炭素排出削減10%（当面）を目標としたプロジェクトチーム（100名～200名）を6ヶ月以内に立ち上げること。</p>	<p>本ビジョン案では、「官民連携による脱炭素プロジェクトの推進」を取り組みの一つに掲げています。脱炭素の取り組みはあらゆる主体に関わり、部門を越えた総合的な取り組みを進める必要があります。そこで、市内ステークホルダー（利害関係者）を構成員の中心とする大野市脱炭素推進会議（仮称）を新たに組織することとしていま</p>	なし

		<p>す。推進会議において、本市全体や部門ごとの脱炭素に関する情報（現状と課題）の共有や、具体策の検討と役割分担、各取り組みの評価と課題解決又は発展策の検討などを行い、各プロジェクトを推進していきます。</p>	
7	<p>地区への説明会を開催し、当初3ヶ月で市内を一巡すること。</p>	<p>本ビジョン策定後は、4月から地区単位の説明会の実施を予定しています。また、出前講座やシンポジウムの開催などで脱炭素に取り組む意義に加えて、脱炭素なライフスタイルに転換することのメリットを市民に啓発し、脱炭素への行動変容につなげていきます。</p>	なし
8	<p>日常の市民の心がけとして、次のとおり市の努力目標を掲げること</p> <ul style="list-style-type: none"> 一、明るい挨拶を交わしましょう 一、市内の美化に努めましょう 一、地球温暖化を防ぎましょう 	<p>本ビジョン案では、①本市の特徴を生かした「結の心」による協働のまちづくり、②豊富な自然や地域資源を活用したまちづくり、そして、③脱炭素の取り組みを源泉とした、経済とエネルギーの域内循環によるまちづくりを進めていくことを基本戦略としています。この基本戦略を表す言葉として「「Connect 2050 人・自然・エネルギーのつながり」～優(Y)しい心と 美(U)しい自然で 挑(I)むカーボンニュートラル～」を掲げています。</p> <p>今後は、この言葉を活用し、地球温暖化問題の啓発と理解深化を進めていきます。</p>	なし

9	<p>子どもたちにも地球温暖化防止活動に参加してもらおうこと。子どもたちには斬新なアイデアを引き出す力や家族や周囲の人々の意識を変える力がある。</p>	<p>2050年のカーボンニュートラル達成を目指すにあたっては、次世代を担う子どもたちに対する啓発や環境教育を通じた人材育成が不可欠です。</p> <p>本ビジョン案では、市民や事業者から賛同者を募るなど2050年脱炭素社会の実現に向けて共に挑戦する仲間（パートナー）作りとネットワーク化を進めることとしています。このネットワークを通じ、次世代を担う子どもたちに対する環境教育を実施していきます。</p>	なし
10	<p>市民への周知のため、今の地球温暖化の実情やなぜこのようになったか、どうすれば地球温暖化問題を解決することができるかをまとめたビデオを準備しておくこと。</p>	<p>国、県では、地球温暖化問題の啓発やCO₂排出量削減への転換を促進することを目的に、ご意見にある内容を題材にした啓発用動画を作成し、広く公開しています。本市では、市民向けの出前講座でこれらの動画を使用するなど、分かりやすく伝えることに取り組んでいます。引き続き、これらの動画を活用し、市民への周知を図ります。</p>	なし